

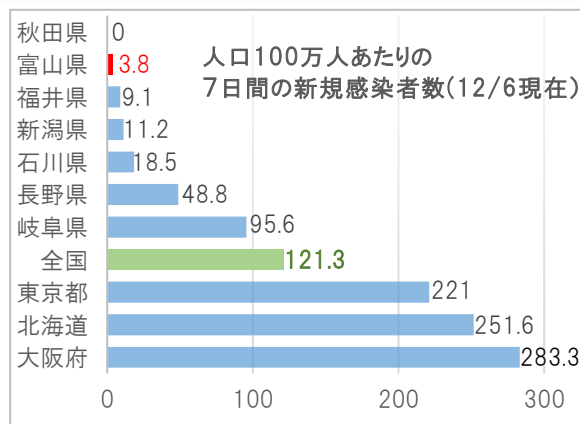
新たな感染症とともに



連日、新型コロナウイルスの感染拡大が報じられています。全国では、第1波<第2波<第3波と増えており、日本では、これまでに約16万人（全人口の0.1%）の感染が報告されています。

右の図は、12月6日現在の「人口100万人あたりの7日間の新規感染者数」です。大阪府、北海道、東京都で200人を超えています。

富山県の感染者は、第1波>第2波>第3波となっており、現在の感染者数は秋田県に次いで少ない状況です。しかし、4月の一時期には富山県も200人を超える状況だったことから、今後も気を緩めず、適切な感染症対策を講じていくことが大切です。



「冬」だから気を付けなければならない感染症対策があります

【冬のリスク1. 寒さ】

体には、健康を維持するために、感染や病気を避けるための自己防衛システム「免疫力」が備わっています。



体温が下がると免疫を担当している兵隊（白血球等）の動きが鈍り、炎症反応を抑制するミサイル（サイトカイン等）の機能も低下するため、免疫機能がうまく働かなくなります。

【冬のリスク2. 乾燥】

暖房にエアコンを使用しておられるご家庭は多いと思います。学校でも、教室の暖房は主にエアコンを使用していますが、空気の乾燥が気になるところです。

空気が乾燥すると、目が乾きやすくなったり喉が痛くなったりします。また、乾燥を好むウイルスの活動が活発になるため、感染症にかかりやすくなります。



冬のリスクを考慮し、感染症対策を行っています

常に窓を開けて外気を取り入れ、空気を循環させる「常時換気」は有効な対策ですが、富山の冬の気温を考えると、室温が保ちにくく、その結果、体温低下を招き、「免疫力」を低下させてしまうリスクが高くなります。そこで、学校では次のことに配慮し、対策を行っています。

1. **休み時間ごとに換気を行う。**冷たい外の空気が一気に入ると室温が急激に下がるため、①人のいない場所の窓を開けて外の空気を取り込み ②建物の温度で外気を少し温めてから、部屋の中に取り込む「二段階換気」等を、工夫して行う。
2. **授業中は、教室内の保温に努める。**教室の児童生徒数が多い場合等、空気の汚れが心配な場合は、廊下に面した欄間（高窓）等を、寒くならない範囲で開けておく。
3. **教室に温湿度計を設置し、環境衛生に配慮する。**マスクを着用している間は口や鼻は覆われており、ある程度の加湿効果も得られているため、加湿器設置等の乾燥対策は、可能な範囲で行う。こまめな水分補給を呼びかける。





質問にお答えします

Q1. 風邪を引き、咳症状は少しずつよくなっていますが、すっかりと治りません。発熱がなければ、登校してもよいですか？

A1. 咳等の症状は治るまで数日かかることが多く、たまに咳が出る程度であれば、登校しても差し支えありません。

登校の際はマスク着用を確実にし、食事等でマスクを外す際は、咳エチケットに気を付けてください。

1週間経っても改善しなければ、一度、 受診されることをお勧めします。

Q2. 38℃の発熱がありますが、元気で食欲もあります。今すぐ受診した方がよいですか？病院では、すぐに何か検査をされるのですか。

A2. 全身状態がよく、他の症状がなければ、発熱当日は自宅で様子を見てもよいと思います。熱がなくても、全身状態がよくない場合（水分も摂れない、ぐったりしているなど）は、早く受診をしてください。

コロナやインフルエンザの検査をするかどうかは、診察した医師が判断します。また、医療機関によって行える検査の種類が異なりますので、かかりつけ医の指示に従ってください。

Q3. 新型コロナウイルス感染症と診断された人のうち、どのくらいの人が他の人に感染させていますか。また、感染した場合、年齢によって、どの程度重症化するリスクは異なりますか。

A3. 新型コロナウイルスは、発症の2日前から発症後5～6日前後の期間、感染力があるとされていますが、**実際に他の人に感染させてしまうのは、感染者の2割以下**です。また、子どもから感染が広がった例は少なく、子どもが感染拡大に関与する可能性は、世界でも極めて低い状況です。

下の表は、「30歳代と比較した場合の各年代の重症化率（集中治療室での治療や人工呼吸器等による治療症例、死亡例の割合）」を表したものです。重症化率は年齢によって異なり、高齢者は高く、若者が低い傾向にあることが分かります。

年代	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
重症化率	0.5倍	0.2倍	0.3倍	1倍	4倍	10倍	25倍	47倍	71倍	78倍

新型コロナウイルスに感染した子どもの8～9割は、家族・大人からの感染であることも知られています。子どもたちを守るために、またご自身のためにも感染に注意してほしいのは、親・祖父母世代なのです。

「学校⇔教育委員会⇔検討会議」の体制を整え、ベストな対応を模索しています

6月の学校再開から半年が経ちました。新型コロナウイルスに関する研究が進み、様々なことが明らかになってきましたが、本検討会議の方針や対策に変更は生じていません。今後も最新の医学的知見を基に、少しずつ対策の緩和・適正化を図りながら、子どもたちの日常を取り戻すよう努めていきます。

2学期には、延期していた学校行事も多く行われました。学校規模や計画内容によっても不安や悩みが異なるため、各学校から教育委員会を経由し、検討会議の医師に相談できる体制も整えています。各学校から寄せられた相談内容は、「質問回答集」にまとめて定期的にフィードバックしており、現在、200問近い情報を共有しています。

比較的、感染拡大リスクが高いとされている合唱コンクールの開催にあたっては、検討会議が作成した「合唱指針」を基に、各学校の状況を考慮した対策をとりながら、多くの学校で美しいハーモニーが響きました。



今後は、「卒業式・入学式開催指針」を作成し、子どもたちの門出もサポートしていく予定です。

感染対策は、家庭と学校で協力して行うことが大切です。

このリーフレットの内容については、必要に応じて改定することもあります。

【事務局】富山市教育委員会 学校保健課(TEL 443-2136)